

1 調査日 平成30年10月16日(火)～17日(水)

2 調査の概要

10月16日(火)

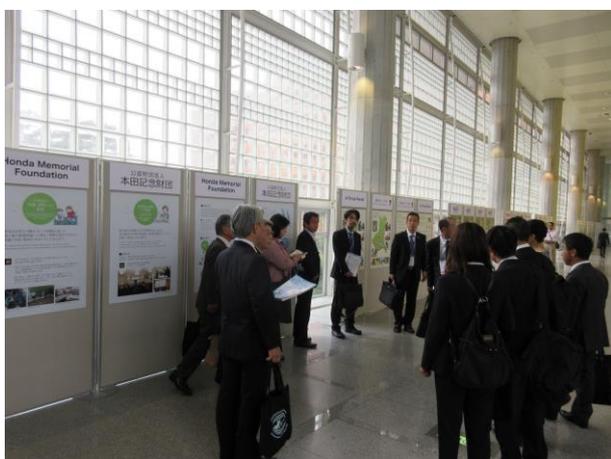
(1) 第17回世界湖沼会議(茨城県つくば市)

調査事項：湖沼流域問題の現状、課題等について

世界湖沼会議は、1984年に滋賀県の提唱により始められて以降、世界各地で開催されてきた。この会議は、研究者、行政、NGOや市民等が一同に集まり、世界の湖沼および湖沼流域で起きている多種多様な環境問題やそれらの解決に向けた取組について議論や意見交換を行う場となっている。

今回、第17回世界湖沼会議(いばらぎ霞ヶ浦2018)が17年ぶりに国内で開催された。プログラムの一つとして、湖沼セッションや分科会、展示会が行われ、湖沼流域関係者の情報共有を図り、流域内および流域間連携を推進するために、主要な湖沼流域の市民、行政、研究者および企業等が活動内容や施策等について討議する場が持たれた。

こうしたことから、琵琶湖の水環境保全等の総合的な取組の参考とするため、湖沼セッションや分科会等へ参加し、主要な湖沼の取り組みや成果、課題解決に向けた展望等について調査を行った。



10月17日(水)

(2) 独立行政法人水資源機構 利根川下流総合管理所(茨城県稲敷市)

調査事項：霞ヶ浦および流入河川の水位管理等について

本県では、琵琶湖周辺の治水対策の一つとして、独立行政法人水資源機構琵琶湖開発総合管理所において、内水排除施設の管理・運用等が行われている。

一方、霞ヶ浦では、霞ヶ浦周辺地域の治水や新規利水の開発を行う霞ヶ浦開発事業によって施設が整備され、独立行政法人水資源機構利根川下流総合管理所が施設の維持管理業務等を行っている。

こうしたことから、琵琶湖周辺の治水対策の参考とするため、霞ヶ浦を対象に、流入河川周辺の農業や漁業に支障を及ぼさない水位保持のあり方や、洪水防止のための管理等について調査を行った。

